

<Daigasグループの大阪・関西万博に関連する取り組み>

2025年2月18日現在

パビリオン 関連	ガスパビリオンへの放射冷却素材「SPACECOOL」の採用（大阪ガス株式会社・SPACECOOL株式会社） 詳細はこちら（リンク先）
	日本ガス協会が出展する「ガスパビリオン」の外装膜に、ゼロエネルギーで外気温より低温にする放射冷却素材「SPACECOOL」を活用した膜材料が採用。夏場の場合で最大10℃ほど、ガスパビリオン内の温度を下げる効果が期待され、空調負荷の軽減により低炭素化に貢献。
その他	大阪ヘルスケアパビリオンへの木材保護塗料「キシラデコール」シリーズの協賛（大阪ガスケミカル株式会社）
	自然を感じる環境共生建築として大阪府産材のヒノキが採用されている「大阪ヘルスケアパビリオン」の木部内外壁用の塗料として、木材保護塗料のメーカーシェアが50%を超える「キシラデコール」シリーズを物品協賛。
	万博会場内で発生する生ごみ・回収されるCO₂を用いたe-メタン製造実証（大阪ガス株式会社） 詳細はこちら（リンク先）
	会場内で発生する生ごみ由来のバイオガスに含まれるCO ₂ 、会場内で回収される予定のCO ₂ と、会場内で製造するグリーン水素を合成することで、一般家庭170戸分のe-メタンを製造。会場内の迎賓館厨房や熱供給施設で利用する実証実験を行う予定。
	「万博会場で使用するカーボンニュートラルガス」の供給（大阪ガス株式会社） 詳細①はこちら（リンク先） 詳細②はこちら（リンク先）
	全国複数の他事業者e-methane、バイオメタンを製造するプロジェクトなどから環境価値を調達・移転し、2024年9月から2025年12月において、「万博会場で使用するカーボンニュートラルガス」を供給。会場内の熱供給施設に設置されるガスコージェネレーション、吸収式冷凍機などで利用される予定。
	デジタルプラットフォーム「CO₂NNEX[®]」の実装（大阪ガス株式会社） 詳細①はこちら（リンク先） 詳細②はこちら（リンク先）
	e-メタンの環境価値管理・移転を可能とし、CO ₂ の流通を可視化するデジタルプラットフォーム「CO ₂ NNEX [®] 」※を大阪・関西万博で実装することについて三菱重工業(株)と合意。また、e-メタンでの利用に加え、将来的なカーボンリサイクル燃料（e-fuel・SAF・グリーンLPG）への適用拡大の可能性を追求していく。※「CO ₂ NNEX」は三菱重工の登録商標です。
	「SPACECOOL」を活用した大型日傘・テント・防水シートの協賛（大阪ガス株式会社・SPACECOOL株式会社） 詳細はこちら（リンク先）
	SPACECOOLを生地表面に活用した大型の日傘は運営スタッフによる来場者の案内時に、テントは運営スタッフのワークスペースとして使用される予定。防水シートは東エントランス広場の建物屋根に施工される予定で、屋内の空調エネルギー削減効果を見込んでいる。
	熱供給施設の運転管理（Daigasエナジー株式会社）
	SMFLみらいパートナーズが代表企業を担う会場内の「2025年日本国際博覧会 熱供給施設運用等委託業務」のうち、Daigasエナジーが運転管理を受託。
	ガスコージェネレーションシステムの協賛（大阪ガス株式会社・Daigasエナジー株式会社）
	会場内の熱供給施設向けに、電気と温水を併産する「ガスコージェネレーションシステム」を無償貸与。得られた電気は会場内の各パビリオンや各施設などで、温水は熱供給施設内の吸収式冷凍機を介して冷水に変換され、空調用として各パビリオンや各施設などで利用される予定。また、万が一の停電時に一部設備に送電する機能も有す。
	建設工事向けAI気象予測サービスの実証（大阪ガス株式会社） 詳細はこちら（リンク先）
	大林組の万博工事現場において、建設工事向けAI気象予測サービスの実証試験を実施。雨や風といった天候に左右される工事や熱中症などの対策に活用が期待される。
	「夢洲コンストラクション」における車両の交通量予測に対するAI気象予報の提供（大阪ガス株式会社）
	先端的サービスとデータ連携により万博会場整備やインフラ整備等の建設工事を円滑に実施するための取り組み「夢洲コンストラクション」において、夢洲周辺の交通量予測に対してAIを活用した局所的な気象予測結果を提供。
	スポーツ振興活動（大阪ガスネットワーク株式会社）
	朝原氏が主宰する陸上・運動クラブ「NOBY T&F CLUB」が損保ジャパンと、「足が速くなるダンス with NOBY」を共創製作。TEAM EXPO 2025主催の「共創チャレンジ」に登録。2025年4月23日に「TEAM EXPOパビリオン」にてステージ発表と展示を実施。（ステージ発表の時間は未定）